

女子は関根、男子は山本良介が完全優勝

2007NTTトライアスロンジャパンカップ第10戦・

JTUスーパースプリントトライアスロン選手権第3戦銚子大会速報

男女ともに、3ヒートとも制しての勝利

9月30日(日)、千葉県銚子市の銚子マリーナ周辺特設コースで、2007NTTトライアスロンジャパンカップ第10戦・

2007JTUSーパースプリントトライアスロン選手権第3戦銚子大会が行われた。

酒田、小名浜に続き、JTUSーパースプリントトライアスロン選手権シリーズの第3戦となる本大会は、同日開催のNTTジャパンカップ第9戦村上・笹川流れ国際トライアスロン大会と並び日本選手権へ向けて出場権を得るための最後の戦いの場でもあるため、日本トップクラスの選手からジュニアまで、女子13名、男子24名の選手が集結。

女子ではナショナルチームであり、スーパースプリント選手権シリーズ第2戦小名浜大会を制している関根明子(NTT東日本・NTT西日本)がベテランの力を見せつけた。

午前12時05分、気温19.2度、強い風と雨のなかでスタートした女子第1ヒートは、スイムから関根がトップで激走し、そのままバイクへ。バイクに入ると、逃げる関根のあとを足立真梨子(トーシン・日東紅茶・TEAM KEN'S)、菊池日出子(チームテイケイジュニア)、上田藍(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)、中西真知子(NTT東日本・NTT西日本)の5選手が追う展開に。しかし、その順位は何度も入れ替わる。

結局2位から6位までの順位はバイク後半、ランで多少の変動があったものの、最後までトップに追いつくことができず、このヒートは関根が制した。



スイムの舞台は銚子の海。海岸から一斉スタート

山本 良介
(トヨタ車体)



サバイバルなレースだったけれど、気持ちだけは前に出していこうと思っていた。

今年も後半からはランでも勝負できるようになっているので、日本選手権もランで優勝できるのではないかと考えている。今年、日本一になって来年の北京オリンピックを目指したい。そのためにはこれから3週間が重要。

関根 明子
(NTT東日本・NTT西日本)



今日は天候が荒れていたけれど、雨のレースが好きなので、私にとっては良かったのではないかと。

次のレースは来月お台場で行われる日本選手権の予定。日本選手権では、まず何よりも「トライアスロンが好き」という初心に戻って、結果を恐れずに思い切りレースに向かっていきたいと思っている。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



女子は関根、男子は山本良介が完全優勝

2007NTTトライアスロンジャパンカップ第10戦・

JTUスーパースプリントトライアスロン選手権第3戦 銚子大会速報

その後、40分おきにスタートした第2、第3ヒートでも、第1ヒートのトップ6選手が中心となってレースが進められた。佐藤、菊池といった若手選手も健闘したが、関根がスイムからトップを走り、結局どの選手も捉えることはできなかった。関根はそのまま3ヒートとも制し、総合1位で終了。

女子の20分後、午前12時25分にスタートした男子は、さらに雨風が強くなり、厳しいコンディションのなかでのレースとなった。若手選手がナショナルチームの山本良介(トヨタ車体)、細田雄一(ウイダー)、とベテランの山本淳一(K'S-Y・グリーンタワー・稲毛インター)という有力選手3名に挑む展開に。

第1ヒートのスイムをトップであがった山本良介は、その勢いのままバイクへと進む。その後ろを細田、山本淳一が付けるが一步届かず、ランに入ってもその3選手でトップ争いが繰り広げられた。長谷川裕一(東京ヴェルディ)をはじめとする若手もそのあとを追うが、上位3選手との距離は縮まらない。第1ヒートはそのまま最後まで勢いの衰えなかった山本良介が制し、細田、山本淳一と続いた。

第2、第3ヒートとも悪天候をものともせず、山本良介が独走を貫いた。細田、山本淳一が僅差に詰め寄る場面もあったが、結局、レースは女子と同じように山本良介が3ヒートとも制しての総合優勝となった。

なおレースの様子は、フォトギャラリーでご覧になれます。



厳しいコンディションとなった男子第3ヒートのバイク

細田 雄一
(ウイダー)



今日のレースはとても悔しい結果だった。雨で路面が滑りやすくなっていたので、日本選手権も目前なことあって、「こけないようにしよう」と慎重になってしまった。トップの3選手の形が最後まで続いていて、結局、総合の結果もそれがそのまま出てしまった。日本選手権では挽回したいと思う。

上田 藍
(シャクリン・グリーンタワー・稲毛インター)



悪天候だったけれど、課題としていたビーチランが良い位置で上がることができた。不足だと思う面もあったけれど、それをまた課題にして強くなっていきたいと思う。

日本選手権に向けて来月からは高地トレーニングの合宿を行うので、第1集団で戦うことができる選手になれるように頑張りたい。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

